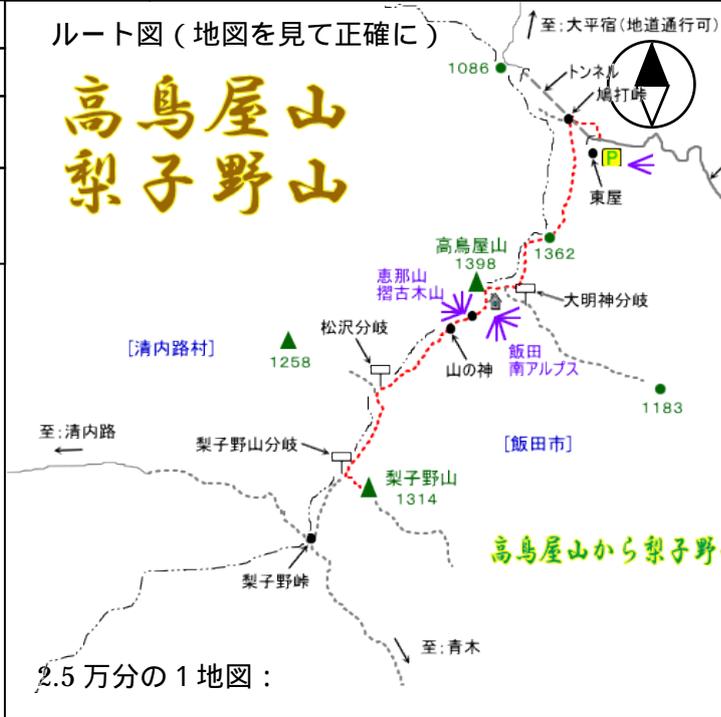


05月度 例会 山行報告書		報告者	町田	参加 メンバー	L町田 塚本 部外者2名 (中井・大須賀)
個人		報告日	05/13		
山域	飯田近郊の山	山行日	2010年05月29日(土)		
山名	高鳥屋山				
山行目的	地域研究	コースタイム(天候:天気図記号)			

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者



05/29 曇り/晴れ
8:00 屏風山P発
08:50 青木林道終点着
09:05 出発
10:10 梨子野峠着
10:25 発
11:30 高鳥屋山着
11:45 発
12:45 梨子野峠着
12:55 発
13:30 登山口着

山行報告 塚本さんがしっかり下調べをしてくれた。登山道案内の資料も載っていてありがたい。青木部落の奥にある登山口を目指して、飯田山本ICを下りてから少し遠回りをしたが浄玄寺の脇に入り口を見つけた。最奥の青木は住人1家族しかいない寂しい過疎の部落だ。草刈のおばさんに登山口をたずねると親切に教えてくれた。登山道の取り付きから赤松の林が続き気持ちが良い。途中で出会った水路補修のおじいさんに、秋にはさぞや松茸が!とたずねると「標高が高いのでさっぱり」とのことだった。登山道脇の草木はきれいに刈られて、あたかも我々の来るのを待っていたかのような。落ち葉の堆積したふかふかの登山道を気持ちよく歩く。気を良くした塚さんが「青木道登るほどに増す緑」とうたえば「色あでやかなツツジ迎える」と下の句を中井さんが仕上げる。この山行、我々の独占場と喜んでいたら、豊田から来たという年配のご夫婦が追い越していった。風景が松林からくま笹に変わるころ梨子野峠に着く。その昔、旅人や馬が清内路へ行き来した峠は、あずま屋もあり御嶽山展望の碑も有る見晴らしの良いところだ。ここでゆっくり腹ごしらえして尾根道を歩き始める。風景は栗の木や唐松の林に変わり、アップダウンを繰り返す。快適なスピードに気を良くして町田が「栗の木の下を足早に中井さん」と詠めば「塚本さんの鈴に誘われて」と返す。山頂は南側が開けて、一段下がった避難小屋の屋根の向こうに天気がよければ南アルプスの南部の山がみえるはずだ。生憎の天気で見えない。ゆっくり休憩したいところだが「じゃまな八エ」がまとわり付くには閉口する。早々に行動食を取り下山する。下りの尾根の途中で登山道から外れた梨子野山を探してヤブに分け入る。三角点は見つからなかったが山頂の標識はあった。梨子野峠には、また別の夫婦が休んでいた。落ち葉の道を足早に下る。

リーダー所見 喧騒と人ごみの山をはずして、いにしへの峠道を歩くのも楽しいものです。上記に登場しない大須賀さんの描写を付け加えておきます。へたな句を連発する面々を尻目に、新緑のやまを堪能しながら心はジャカルタのご主人に飛んでいたのかもしれない。

以上 町田



高鳥屋山頂

確認
(リーダー)
町田
10/06/09

作成
(報告者)